

「企業と会計」への招待

2008年から「企業と会計」が1年生の必修科目になりました。この科目は、経営学科への入り口となる科目です。高校を卒業したばかりの大学1年生が、いきなり経済や経営の科目に接したら、戸惑うと思います。その理由の1つは、そもそも「企業」とはどのようなものか、その全体像を、普通はあまり知らないからです。経営を学ぶためには、まず企業のことを理解している必要があります。そして企業を理解する近道は、会計を知ることです。会計とは企業活動を数字で表すものだからです。そこで会計の基礎的な仕組みを解説するために、この科目ができました。

「会社の数字が読める」ということは、現代のビジネスマンに求められる必須の能力とも言われます。逆に彼らはそれだけ会計に縛られているとも言えます。たとえば企業は利益を追求するといいますが、その利益は会計の計算によって確定します。計算方法が変われば利益の額も変わります。つまり会計のあり方が企業の行動にも影響するのです。だからこそ、今の会計のあり方がよいのかということも、私たちは常に考えていかなければなりません。例えばフィギュア・スケートの採点方法が変われば、試合に勝つために演技の内容が変わ

■企業と会計A・C
■環境会計

水口 剛
(みずぐち たけし)



企業勤務、公認会計士、環境NPO事務局などを経て、本学教員となった。専門は監査・保証業務、環境情報開示、環境会計、社会的責任投資、NPO会計など。どれも今動きつつある分野で、自分自身もその流れの中にいる感じ。大学の先生がこんなに忙しいとは知らなかった…

るように、会計は企業活動というゲームのルールのようなものなのです。

「企業と会計」の授業を受けるときは、漫然と話を聞くのではなく、常にこのようなことを考えながら聞いてほしいと思います。同時に会計は、一種の「技術」でもあります。技術は頭で理解するだけでなく、身につかなければ意味がありません。「身につく」とは意識しなくても使える、という意味です。そうなるためにはトレーニングが必要です。会計を学ぶときには「手を動かす」、つまり常に自分で計算してみるということが大事です。真に会計が身についたとき、真の批判もできるようになるでしょう。